

岩手よもっと
元気になれ!

(財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報 いわて

Vol.

81

CLOSEUP
岩手力!

株式会社井戸商店

研修支援企業紹介

報告

第4回いわてビジネスプラングランプリ
各賞決定

お知らせ

農商工等連携で地域を活性化しよう
下請かけこみ寺

募集

工程改善研修会参加企業の募集

CLOSEUP

岩手カ!

研修支援企業紹介

株式会社井戸商店



工場での生処理の工程。特に異物混入に神経を配り、安全・安心な食材の提供を実現している。処理されたイカは、すぐに冷凍されるため保存料や着色料などを使用しなくても済む。また同社は「食育」にも取り組み、子供たちや消費者に新鮮なイカの見分け方やイカの性質、おいしい食べ方などを普及する活動を行っている

学校給食マーケット中心に
業務用冷凍食材を提供。
研修でカイゼン意欲高まる

株式会社井戸商店（本社・釜石市）は、イカを主体にした業務用冷凍食材を製造・販売。問屋や商社を通じて全国の学校給食や居酒屋、レストラン、スーパーマーケット、コンビニなどに商品を供給している。同社では、いわて産業振興センターの研修や講習を積極的に活用し、高い経営意識やカイゼン意欲を持った人材の育成を図りながら、世界との競争に打ち勝つ経営戦略の構築とその実践に努めている。

「経営者大学」で 経営の基礎を学ぶ

「異分野のIT業界から水産業界に飛び込み、それまでサラリーマンの経験しかなかったのに、いきなり経営側の立場になりました。最初はとまどいもありましたが、経営者大学の研修では、基礎から経営のさまざまなことを学ぶことができ、それが今でもとても役に立っています」

井戸商店の大橋武一社長が、入社当時をこう振り返る。大橋社長は現在50歳。東京時代はコンピューターのシステムエンジニアとして自治体や政府機関などの防災システムの構築等に携わっていたが1998年、40歳のときに妻の大橋祐子常務の「釜石に行きましょう」という提案を受け入れ、家族4人で東北の港町にやって来た。

祐子常務は、創業者の故井戸二郎氏（04年逝去）の長女。当時小学生の二人の子供のアレルギーに心を傷め、「都会は子供を育てる環境ではない」という思いから帰郷を決意、夫に申し出た。北海道出身で身近に大自然のある環境で育った武一氏も妻の意見に賛成し、新しい人生のスタートを切ったのである。

▲井戸商店では1日5トン、年間1500トンのイカ製品の原料を生産。売上げの3分の1は学校給食用食材で、安定経営の柱となっている

釜石で暮らすことになった武一氏は、将来の後継者候補として井戸商店に入社。包丁を握り、イカの処理を行う工場の現場からスタート。その後、01年に常務となり、04年の井戸社長の逝去にともない社長に就任。この間、いわて産業振興センター主催の「経営者大学」の研修に参加し、「経営戦略」「計数の理解・経営分析」「マーケティング・商品開発」「リーダーシップ」といったテーマの講座を受講した。



▲釜石市大平町にある冷凍工場。「自分たちの会社だけが良くなってダメ。運送会社さん、資材屋さんなど、地域全体と一緒に良くなることを考えていかなければならない。これが先代社長の父の口癖でした」（大橋祐子常務）

イカに特化し、 冷凍管理で経営を安定化

井戸商店の創業は68年。創業者の井戸二郎氏（27年、北海道出身）は大学卒業後、「マルちゃん」のブランドで知られる東洋水産の前身の横須賀水産(株)に勤務していたが、29歳の時に釜石・平田漁協保有の平田冷蔵に工場長として出向。1年の予定が「釜石が好きになった」という本人の希望で長く勤務を継続し、その後、独立して立ち上げたのが井戸商店である。

当初は浜で購入したサンマ、鮭、イカなどの水産物一般を凍結処理して中央の間屋などに販売していたが、創業10年後に現地に急速冷凍の設備を備えた新工場を建設し、扱う水産物もイカに特化した。

大橋社長は、この時の井戸社長の経営判断が同社発展の礎を作ったと説明する。

「日本人が重量ベースで一番食べている海産物はイカなんです。最近のデータでは一人平均、1年に4キロを食べているという調査結果が出ています。商品を日本人が大好きなイカにしぼり、しかも冷凍管理することで、漁期や収穫量の波に左右されることなく、年間を通じて安定的にお客様に供給できるシステムを作り上げました」

また、船頭に港に戻るまでの間に選別や内臓抜き取りなどの作業を依頼して、鮮度の維持や水揚げ後の作業効率アップにも、業界でいち早く取り組んだ。工場ではイカに刻みを入れたり、リングにカットするなどの加工を施して冷凍管理を行う。同社製品の高い品質と安定的な供給能力は、当時から全国の間屋や商社などの高い信頼を集めてきた。



▲ベルトフリーザーを通過したイカは、凍結して出てくる。撮影時は、3種類のイカを同時に処理。これは、マーケットが求める少量多品種に対応したカイゼンの成果の一つ

幹部・中堅社員への 経営意識の浸透に効果

大橋武一社長と祐子常務の経営体制になってからは、さらに付加価値を加えた商品の開発や国際競争力の強化などに積極的に取り組んでいる。祐子常務が言う。

「このような意識を持つことができたのも経営者大学やリーダーシップ研修の講座に参加して、講師の先生方からさまざまなことを学んで刺激を受けたからです」

二人は、経営の舵取りをするようになってから、東京の間屋や中央でしごきを削っている同業者たちから「もっと勉強しなければ、生き残っていけないよ」と常々言われてきた。が、何をどのように勉強したらいいのか、なかなかきっかけがつかめなかったという。講座受講はその契機となり「基礎を学んだことで、自分でテーマを見つけ出し、自分一人でも勉強できるようになった」と祐子常務は話す。

同社では2年前から幹部社員を毎年2～3名ずつリーダーシップ研修に派遣し、カイゼン意識の高い人材育成に力を注いでいる。大橋社長は「経営側の意図が、素早く正確に幹部社員たちに伝わるようになった。全社員が高い目標を持つようになり、ここ数年で会社の雰囲気明らかに変わりました」と、その成果を強く感じている。また「水産物だけでなく農産物も含めた『食』を扱う、三陸一の優良メーカーを目指していく」と将来の目標を語っている。



企業概要

- 創 業 1968年7月1日
- 設 立 1987年1月1日
- 代表取締役 大橋武一
- 資 本 金 3200万円
- 売 上 8億5000万円
(09年12月期見込み)
- 商 品 業務用イカ製品、いか塩辛・一汐するめ・「南部真鮭寒風干し」・いくら製品などの三陸産のギフト商品など
- 所 在 地 釜石市大平町4丁目1番26号
電話 0193-22-5561
- 従業員数 62名

URL <http://www.maru-hei.co.jp/>

今月の表紙 / 井戸商店の若手社員。左から柿内彩乃さん（20）、千葉大樹さん（23）、藤賀茜さん（21）、鈴木良和さん（21）さん。「全国の学校給食で子供たちの口に入るものを作っているの、異物の混入など無いように、安全で安心な製品づくりに神経を集中しています。おいしいと喜ぶ子供たちの顔を思い浮かべると、楽しくなります」（女性2人）。「明るくて元気な人が多いので、雰囲気のとていい会社です」（男性2人）。

1958年2月、北海道生まれ。大学卒業後、地質・地化学調査の会社、コンピューターのシステム開発等の会社を経て98年春、家族で釜石に移り住み、妻の父親が創業者の井戸商店に入社。01年常務、04年社長。IT技術の導入で、お客様との情報のやりとりや社内事務を含めた管理の合理化を図ったほか、理系技術者の視点と発想でユニークな商品を開発。「仕事は楽しくがモットー。妻と創意工夫の話をしているときが楽しいですね」。



▲ヒット商品の「ねじねじくん」。らせん状にねじれるようにカットすることで、タレがしっかりとからみ、歯ごたえもやわらか

IWATE Business plan Grandprix

第4回いわて ビジネスプラン グランプリ 各賞決定!



ビジネスプラングランプリ開催される

新たな事業の創出と発展を図る目的で11月20日、当センター主催による「第4回いわてビジネスプラングランプリ」が開催されました。応募のあった事業プランのなかから、この日はスタートアップ部門3社、イノベーション部門5社の事業プランの発表がおこなわれ、審査の結果、スタートアップ部門では(株)オウル(一関市・エコ建材事業部)、イノベーション部門では(株)ヘイブ(盛岡市)の事業プランがグランプリに輝きました。

(株)オウルは、古民家や空き家を活用した会員制民泊の宿泊村事業プランを提案し、地域活性化のための定住促進策として評価されました。また、(株)ヘイブは、古着を販売するシステムとして、毎週水曜日に値下げする独自手法により、日本一を目指すことが評価されました。

審査員の大滝精一(東北大学大学院教授)は、「発表のあった事業プランは、成長の可能性の高いプランが多かった。(株)オウルのプランは地域活性化に結びつけていただきたく、また(株)ヘイブのプランは斬新であり、リサイクルという社会的課題にも挑戦している」との講評をいただきました。



スタートアップ部門

事業プラン

IWATE 古民家プロジェクト

事業概要

岩手県内に点在する、古民家や空き家を利用して宿泊村をつくり、古民家の共同オーナー制度、古民家や空き家の修復体験、オーナーや県外のお客様に岩手県産食材を定期便サービスにより提供します。



イノベーション部門

事業プラン

リサイクル古着店「ドンドンダウン オンウェンズデー」の店舗展開

事業概要

古着や雑貨を主な商材に「毎週水曜ドンドン値下げ」する販売システムや買い取りを全て断らない等の手法により、リサイクル古着の日本一を目指しています。



株式会社 オウル

● (株)オウル
中本 忍氏



優秀賞

株式会社アイプランツ・システムズ

- 事業プラン
3次元画像処理ビジネス

●事業概要
断層画像データを有効に活用するためには、2次元画像データを3次元へ再構成し、判りやすく可視化する必要があります。これを汎用パソコンで簡単に行う技術を開発し、岩手県立大学発のベンチャー企業として提案します。



グラータ・モール

- 事業プラン
アンバーサロン@石割プロジェクト～
介護予防と企業の業績向上をつなぐ企画提案～

●事業概要
地域に高齢者交流の場所（アンバーサロン）をつくり、このアンバーサロン内で企業に商品販売等の機会を提供、高齢者世代の新しい体験と元気！を目指す取り組みです。



優秀賞

DESIGN 和手ぬぐいの店 ありすや

- 事業プラン
大切な日に贈る「arisuya メッセージ手ぬぐい」の企画・製作・販売

●事業概要
従来の手ぬぐいのデザインを一新。記念品・ギフト用品としてご利用いただけるオリジナル手ぬぐい事業です。



株式会社 ハイプ

● (株)ハイプ
岡本 昭史氏



株式会社栄組

- 事業プラン
ライフサイクルコストを低減するコンクリート亀裂補修技術の確立と事業化

●事業概要
ライフサイクルコストを大幅に低減するコンクリート構造物の亀裂補修技術を確立し、住宅・建築物・インフラの長寿命化を実現する。



株式会社阿部総業

- 事業プラン
バイオマスバーナーの開発

●事業概要
木質チップはもちろん、これまで敬遠されていた抜根、畜産堆肥等ケイ酸分の多いバイオマスも燃料として利用できるバイオマスバーナーを開発。原油高騰対策として自信をもって提案します。



有限会社アウツシュ

- 事業プラン
ALL 国産！ 大人の犬服専門事業！

●事業概要
大人が楽しめる犬服メーカーブランド No.1 を目指し、インターネットをフル活用した岩手縫製王国復活へチャレンジ。

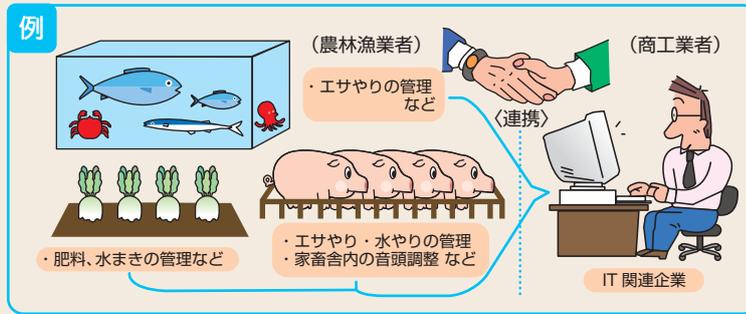


農工商等連携で地域を活性化しよう

中小企業者と農林漁業者とが連携し、それぞれの経営資源を有効に活用して新商品・新サービスの開発等を行う場合に総合的な支援を行います。

農工商等連携とは…

農林漁業者と中小企業者が共同で行う新たな商品やサービスの開発等に係る計画について国が認定を行い、この計画に基づく事業に対し、補助金、政府系金融機関による低利融資、信用保証の特例等の支援を行うことにより、農林漁業と商工業等の産業間連携を強化して地域経済を活性化する取り組みです。



中小企業庁広報リーフレットより転載

農工商等連携促進法(平成20年7月21日施行)による支援

マーケティングに精通した専門家が、新商品、新サービスの開発・販売に共同で取り組む中小企業者と農林漁業者の相談に応じ、市場調査、商品企画、販路開拓等に係るアドバイスなどハンズオン支援を行います。

また、「農工商等連携促進法」に基づき、中小企業者と農林漁業者が共同で事業計画を策定し、国の認定を受けると次の支援を受けることができます。

① 補助金

中小企業者と農林漁業者が連携して行う試作品開発、展示会出展等に係る費用の一部を補助します。(事業費の2/3、助成限度額25,000千円程度)。

② 保証・融資の優遇措置

政府系金融機関による低利融資、信用保証協会の債務保証枠の拡大ほか。

③ 税の優遇措置

機械・装置を取得した場合に特別償却又は税額控除を選択できます。

注) 計画の承認は、支援措置を保証するものではありません。計画承認後、利用を希望する支援策の実施機関の審査が必要となります。

「農工商等連携事業」の基本的要件

1. 中小企業者と農林漁業者が設備、技術、知識等を持ち寄り、明確な役割分担の下実施する事業であること(単なる購買・仕入の関係でないこと)
2. 新商品若しくは新サービスの開発、生産・提供又は需要の開拓を行うものであること
3. 5年以内の期間の計画策定
4. 中小企業の経営の向上かつ農林漁業者の農林漁業経営の改善が実現すること

財いわて産業振興センターでは、地域力連携拠点事業で農工商等連携を支援します。ご利用ください。

参考URL「岩手の地域力連携拠点ポータルサイト」 <http://www.joho-iwate.or.jp/kyotenhp/>

センターでは、中小企業庁発行の下記冊子を用意しております。ご希望の方はその旨申し出ください。

今すぐやる経営革新

夢を実現する創業

事業承継ハンドブック

今チャレンジ新連携

中小企業施策ガイド



工程改善研修会参加企業の募集

当センターでは、平成16年度から製造業の基盤強化支援として「工程改善研修会」を開催しています。

これは、トヨタ式の改善活動に長く携わった関東自動車工業OBを指導者として、4~5企業を1グループにし、参加企業の工程を互いに改善し合う実践の場です。これにより、参加企業の改善能力の向上とそれを推進する人材の育成を行います。16年度以降5グループ23社が参加し、3グループ12社が継続して改善活動を行っています。ちなみに1年以上の参加企業は8~42%生産効率が向上しています。

異業種でグループを編成しますので、改善内容は、個々の業種に特有の技術の改善ではありません。製造業に共通する『**いかにムダ・ムラ・ムリ無く、合理的に作るか**』（労働強化にならないムダの排除による「ものづくり」）をテーマに改善を行います。

ただし、年間約40日間(月4日間)に及ぶ研修ですし、他社の方に自社の工程を公開し、さらに提案され納得した改善案は実行していただきますので、人的に相応の負担があります。

参加希望の方は、下欄の申込書に記載の上、平成21年1月9日までにファックスでお申し込みください(必着)。指導者が申込企業を訪問の上、選考いたします。



記

1 募集業種

鋳造、鍛造、鉄骨・製缶、機械加工、金属プレス・板金、樹脂成形、表面処理、レンズ・ガラス加工、組立、縫製を行っている岩手県内に工場がある製造業者

2 募集企業数

5社

3 選考要件(優先順)

次を考慮して決定する。

- (1) 経営トップの改善意欲・姿勢
- (2) 企業の規模・人容
- (3) 業種(同業種が重複する場合には、考慮します)
- (4) 自動車産業・半導体産業への参入企業(参入希望含む)

4 参加費用

無 料

5 詳細はお問い合わせください。

申し込み・問い合わせ先

総合支援グループ/山根・福島

TEL.019-631-3823 FAX.019-631-3830

切り取り線

工程改善研修会参加申込書

会社名			
資本金	千円	従業員数	人
連絡担当者	所属・役職		
	氏名		
	電話番号		
	E-Mail		

下請かけこみ寺

中小企業庁が下請適正取引推進などの中小企業支援策として今年4月から開始した、取引に関する無料相談窓口「下請かけこみ寺」は、**より機能が強化**され、来年3月までの間、『**弁護士無料相談**』を行います。

弁護士無料相談をご活用ください。

弁護士無料相談は、来年3月まで随時受け付けていますのでお気軽にご相談ください。
県北、沿岸、県南地域につきましては弁護士が出向きます。
また「かけこみ寺・移動相談所」において無料弁護士相談会を計画しています。

かけこみ寺・移動相談所

1月の開催予定

二戸会場	二戸広域観光物産センターなにやーと3階	1月 7日(水)	10:00~15:00
久慈会場	久慈商工会議所	1月 8日(木)	10:00~15:00
一関会場	(財)岩手県南技術研究センター	1月20日(火)	13:00~15:00

下請かけこみ寺・弁護士無料相談・ガイドライン説明会問い合わせ先

TEL019-631-3822 育成支援グループ 担当/伊藤・渡辺 E-mail: joho@joho-iwate.or.jp

経済産業省からのお願い 平成20年度調査票提出促進運動について

経済産業省経済産業政策局調査統計部

経済産業省経済産業政策局調査統計部が実施する各種統計調査につきましては、平素より御協力頂き、厚く御礼申し上げます。皆様より提出された調査票は、当部において集計・加工・分析をした上で公表され、国・地方公共団体の行政施策の基礎資料、商工鉱業における企業経営資料として、さらには諸研究のための貴重なデータとして広く利用されております。

経済産業省では、調査を円滑に実施するため、各事業団体等加盟の調査対象企業・事業所のうち調査票の未提出の事業所に対して改めて調査票提出の依頼を行う「調査票提出促進運動」を実施しております。

引き続き皆様の御理解を賜り、調査票の提出に御協力下さいますようお願い申し上げます。



スタッフからひと言

メタボ検診

育成支援グループ 福島 富士子

みなさまが本誌を手取るころは師走真只中。業務の忙しさと並行して、忘年会やクリスマス等、お酒の席が増える時期でしょうか。お酒が大好きな私にとって一番活動的な季節が到来しました。当センターでは10月から11月にかけて、スタッフの健康診断を実施しました。今年度からメタボ検診が義務化されましたが、女性にとっておなか周りのサイズを測られるのは、心地の良いものではありません。今回はぎりぎりセーフだった私。年末はお酒を控えなければ…と反省。メタボリックシンドロームにならない対策として、「バランスの良い食生活や運動を心がけること」なんていうのはみなさまも存じのこと。見落としがちなのがストレスとの関係だそう。とある調査では“長きに渡り職場でのストレスを感じた人は、そうでなかった人に比べて肥満になる確率や、お腹周りの脂肪が増加する確率が高かった。(※)”とのこと。

ストレスの少ない職場環境を整え、ストレスを感じた時は発散するといった、心と体両面の健康づくりを行うことが大切なようです。私はお酒でストレスを発散するので、やっぱり今年末もお酒を飲むことになりそうです。(これを本末転倒というのでしょうか。)

最後になりましたが、本年は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。2009年も何とぞお引き立ていただきますようよろしくお願いいたします。

(※) <http://www.mh-guide.com/symptom/metabolic.htm>を参考とした。